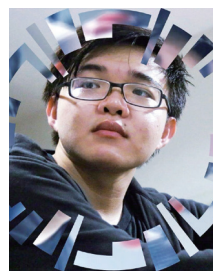


● シリーズ 私の見た日本 Vol.196

私の人生を構成する素材

David Christian (デヴィッド クリスチャン)

1995年インドネシア・スラバヤ生まれ。2019年Pelita Harapan大学建築デザイン学科にて学士号取得。2021年北九州市立大学大学院環境工学研究科修士課程修了。現在、北九州市立大学大学院環境工学研究科にて博士課程に在籍中。サステナブル建築の歴史や保存技術・VR技術について研究を行っている。



私が日本に留学に来て約2年半が経とうとしている。私は日本以外の他の国に留学することを考えたことはなかった。日本の文化、伝統、日本が関わるものに対して興味が尽きず、日本の文化に浸かって自分の興味関心を突き詰めたいという想いがあり日本にやって来た。これから私から見た日本の魅力について述べていく。

木

私が持っていた日本への最初のイメージは「木」である。自国であるインドネシアで日本の木造技術「組木」に出会い、その精巧な技術と造形の美しさに魅了された。特に関心を持った背景には、単に組木の造形が美しいからではなく、組み立てられた接合部が全体の配色の構成について補完する役割を担っており、組木という小さなディテールの存在が全体の印象を左右するという驚きがあったからである。日本の技術力は世界に認められているが、その精巧さは、職人たちがものをつくる一連のプロセスから美しく、正確で、ひとつの設計哲学を表しているという点に感銘を受けたのである。

私は日本を旅行する際、有名かどうかにかかわらず、なるべく神社や寺などの歴史的な建築物を見るようにしている。訪れるところには、時が経ち自然に風化した建築物と周りの自然、環境そのものが一体化した静寂を感じることができる。日本の歴史的な建築にはいつも木の存在があり、そしてそれは風土と固く結びついている。日本の四季のある気候で育った木が、建築物となり新たな命を吹き込まれ、何十年、何百年と生き続ける。これは木材が持つ大きな魅力であり、他の材料とは一線を画しているだろう。東京タワーやせんだいメディアテークは独自の技術で進歩を

遂げており、それもまた驚異的であるが、私はやはり木材だけが持つことができる伝統やその優雅さは日本の建築の根底に存在していると思う。

また、建物だけでなく三味線、琵琶、箏、太鼓などの和楽器も木を起源としているが、現代ではこれらの楽器が伝承されるだけでなく、和楽器バンドとして現代の日本音楽と融合させ絶妙なメロディーを奏で進化している。伝統と革新的な技術を融合させる点において固有のアイデンティティが確立されていると感じている。

メディア

最近、日本ではよく地方に拠点を移したり、地方と都会のデュアルライフを楽しむ人もいる。その生活を選択肢として多くの人が受け入れることができるようになったのは、言うまでもなくインターネットのおかげである。テクノロジーは私たちの生活を飛躍的に向上させ、個人的には私のゲームへの興味関心に大きく貢献してきた。日本はゲームやゲーム機の発祥の地でないかもしれないが、時代を超えるような名作ゲームを数多く生み出してきた。私はゲームによって多くを学び、ゲームによって育ったといっても過言ではない。日本文化に初めて触れたきっかけも日本がつくったゲームであった。ゲームだけでなくアニメや漫画も日本の文化として際立った魅力のひとつであるが、これらのメディアと呼ばれるものの中で「サイバーパンク」というSFのサブジャンルがある。これは日本のメディア系の文化にも大きな影響を与えていたし、現在の日本の大都市の景観にも影響を与え、ネオンに満ちた夜景や繁華街の雰囲気として表れている。

前述からもうおわかりのように、私は多く

のメディア商品を趣味として集めている。特に自分の好きな作品のキャラクターのフィギュア集めに没頭しており、インドネシアと日本の両方の自室には棚から溢れかえるほどのフィギュアがある。フィギュアは部屋に飾られること以外に意味はないし、金の無駄だと非難する人も多くいるのはよくわかっている。しかし集めたり、飾ったりする行為に没頭するというよりもむしろ組み立てていくプロセスに、ものをつくる喜びを教えてもらったため、日本のフィギュアには感謝している。

これらの日本のサブカルチャーには「プラスチック」と「消費主義」の共通テーマが隠れている。メディアは何か面白そうな情報を示し、企業は商品を販売する。顧客はそれらを購入し、企業はそのキャラクターが有益であることを学び、より多くの商品を生産し続けている。これこそ資本主義の仕組みであり、プラスチックの消費を推し進めているのは事実だ。今後も勢いが増すサブカルチャーの波に乗った資本主義が環境問題に対してどのように向き合っていくか、私はこれからも日本に居ながらその行く末を見届けたいと思う。

まとめ

これまで述べてきたように、私は日本から多くの影響を受けてきた。そして日本からたくさん影響を受けてきた自分自身がとても好きであり、日本人たちがつくった文化を尊敬している。人々の中にはアニメや漫画、メディアに没頭している人を揶揄する人もいるが、私は自分が好きなものに対する情熱を表現することに対して何の恥も感じていないし、これからも自分の好奇心に従って正直に生きていくつもりだ。これから日本が直面していく問題について、私も日本で勉強する学生として一緒に取り組んでいきたい。

(翻訳：北九州市立大学大学院環境工学研究科博士後期課程 森 友里歌)



清水寺に見る日本の木造技術「組木」



周りの自然と一体化した神社



皿倉山頂上からの夕日



菊地真の誕生日を祝う会



秋葉原 電気街



初桜が咲き誇る北九州市陣原地区